

こんな本があります
郷土博物館・文学館発行の主な特別展図録

分類	資料名	出版年
S13	「ハチ公のみた渋谷」展 開館記念特別展	2005
S33	文芸評論家 奥野健男の仕事	2006
S16	伝説のつわもの 渋谷金丸	2007
S71	住まいからみた近・現代の渋谷 郊外生活から都市生活へ	2007
S13	「春の小川」の流れた街・渋谷 川が映し出す地域史	2008
S72	企画展 渋谷で飛行機が飛んだ	2010
S13	渋谷の富士講 富士への祈り	2010
S16	渋谷に残された版木 国学者塙保己一とその遺産	2012
S13	ハチ公	2013
S72	渋谷駅の形成と大山街道	2017
S33	作家・平岩弓枝展 人と作品	2018
S67	渋谷の東京オリンピックと丹下健三	2019
S33	与謝野晶子と文芸誌 「明星」から「冬柏」まで	2020

白根記念渋谷区郷土博物館・文学館

渋谷区東4丁目9番1号 TEL 03-3486-2793
 開館時間：11時～17時 金曜日は19時まで 土曜日は9時から 有料
 入館は閉館の30分前まで
 休館日：月曜日（休日の場合は、その直後の平日）・年末年始
 交通：渋谷駅から徒歩約20分
 都営バス（学03 日赤医療センター行き）「国学院大学前」下車徒歩2分
 ハチ公バス（恵比寿・代官山循環）「郷土博物館・文学館」下車徒歩0分
https://www.city.shibuya.tokyo.jp/shisetsu/bunka/shirane_index.html

渋谷区政資料コーナー

渋谷区宇田川町1番1号（渋谷区役所6階） TEL 03-3463-1211
 利用時間：月～金曜日 8時30分～17時
 行政資料の閲覧・コピー、渋谷区刊行物の有償頒布などを行っています
https://www.city.shibuya.tokyo.jp/kusei/kankobutsu/shiryo_corner.html

しぶや、あの日 あんなこと そして こんな本

— 渋谷区地域資料通信 8 —

2021年3月15日
 編集/発行 渋谷区立中央図書館 ㈱図書館流通センター
 渋谷区神宮前1-4-1 3403-2591
 図書館ホームページ>しぶやのページ
https://www.lib.city.shibuya.tokyo.jp/?page_id=209

しぶや
あの日 あんなことそして
こんな本

渋谷区地域資料通信 8

地域資料とは地域に関する歴史や地誌、民俗・文学などの郷土資料と主に自治体が発行する行政資料の総称のことで、渋谷区の図書館では渋谷区及び東京都・都内自治体を「地域」の範囲として、渋谷区には「S」・東京都には「T」と主題別分類番号、都内自治体資料には「U」と自治体固有番号を付して配列しています。渋谷に関係する資料は図書館のほかに「白根記念渋谷区郷土博物館・文学館」や「渋谷区政資料コーナー」でも収集を行っており、図書館では書籍資料を、博物館では現物資料を、区政資料コーナーでは行政資料を中心とし、それぞれが役割分担をして収集提供を行っています。渋谷に関する知りたいことや調べものにどうぞご利用ください。中央図書館には3階に地域資料コーナーを設けています。

図書館から郷土博物館へ

郷土博物館・文学館は中央図書館にあった郷土資料室が、昭和50年に「渋谷区立白根記念郷土文化館」として単立開設され、平成17年に文学館を併せ持つ現在の姿にリニューアルしたものです。名称のうちの「白根」とは郷土文化館として独立する際に、その敷地と建物を長く区議会議員を務めた白根全忠氏から提供されたことによるものです。郷土博物館では渋谷の歴史・地理・民俗などを編年的にたどれる常設展示のほかに、年に数回の企画展や特別展、現代の渋谷を様々な角度から紹介するショーウィンドー展示を開催するとともに、講座やワークショップなどを行っています。地階の文学館には渋谷にゆかりのある文学者の紹介をはじめ、渋谷に生まれ育ち文芸評論家として活躍した奥野健男氏の再現書斎などがあります。図書館から博物館を訪ねる道のりは、45分ほどです。中ページで紹介しているルートは区の東端を通ることになりますが、周辺の見どころなどを巡りながら足を向けてみてはいかがでしょうか。



白根記念渋谷区郷土博物館・文学館

オリンピック記念国旗掲揚塔

昭和41年（1966）9月に東京オリンピックを記念して、原宿三丁目町会が設置しました。記念国旗掲揚塔は代々木駅前交番の近くにもあります。

中央図書館の所在地

江戸末期には石見津和野藩亀井家屋敷があり、明治になって池田邸、その後海軍館・東郷神社などが設けられ、戦後海軍館の敷地は日本社会事業大学になりました。大学が移転した後に原宿警察署・中央図書館などが移ってきました。

原宿橋

明治通りから熊野神社へと向かう道に架けられていたのがこの橋で、南側に残る親柱は昭和9年5月に架け替えられた時のものです。本来の原宿の中心はこのあたりと思われ、原宿駅の当初の所在地は代々木村で、原宿として賑わう竹下通りや表参道は千駄ヶ谷町原宿の内ではありませんでした。

旧渋谷川遊歩道

このあたりの渋谷川は前回の東京オリンピックを前に暗渠化され遊歩道となりました。今では裏原宿などとも呼ばれ、もっと下流方面ではキャットストリートとも呼ばれて賑わいを見せています。江戸期には水車のかかる川筋で葛飾北斎の富嶽三十六景のうちに『隠（穩）田の水車』として描かれています。『森の水車』を作曲した米山正夫は穩田の出身です。

同潤会青山アパート跡

同潤会アパートは関東大震災の復興時に、耐火耐震の鉄筋集合住宅として東京・横浜の各地に造られました。区内ではこと代官山に建てられました。平成18年（2006）に安藤忠雄の設計による「表参道ヒルズ」が竣工し、ヒルズの端には往時を模した建物が再現されています。

表参道・参道橋

大正9年（1920）に明治神宮が鎮座した際に、神宮と青山通りとを結び表参道が開通しました。その際に渋谷川に架けられた橋は参道橋と名付けられ、参道脇には親柱が残っています。参道は冬至の日に神宮から見てその先に日が昇るように設計されているそうです。このあたり一帯には安芸広島藩浅野家の下屋敷があり、鐘（あぶみ）の池という大きな池がありました。

大山史前学研究所と大山柏邸跡

戦前、明治の軍人・政治家大山巖の屋敷があり、その次男に生まれた柏は、軍人の傍ら考古学の研究に深く携わり、自邸内に史前学研究室を創設しました。それを記念する案内板が設置されています。

青山学院 間島記念館・ベリーホール

大学をはじめとする青山学院のキャンパス内には間島記念館やベリーホールなど国の登録有形文化財になっている建物があります。キャンパスの下には六本木通り建設による青山トンネルが通り抜けています。江戸期この敷地は伊予西条藩松平家の上屋敷でした。

白根記念渋谷区郷土博物館・文学館

塙保己一史料館（温故学会）

温故学会は江戸期の盲目の国学者塙保己一の偉業を継承する目的で、明治43年（1910）に設置されました。ここにはその編纂になる『群書類従』などの版木が保管されており、その摺写・頒布が行われています。『群書類従』の版木は国指定重要文化財になっており、会館建物は国の登録有形文化財になっています。

常盤松の碑

この地には樹齢400年ともいわれる松の名木があり、幕末の島津家下屋敷時代に藩士によって由来を記した碑が建てられました。このあたりの旧地名常盤松（常磐松町）の起源とされています。松は戦時に被災しています。

常陸宮邸

このあたりは幕末に薩摩鹿児島藩島津家の下屋敷になり、天璋院篤姫はこの屋敷から江戸城へ輿入れしたといわれています。明治以降は宮家の邸宅となり、昭和25年（1950）に皇太子であった現上皇の東宮仮御所となり、昭和34年のご成婚時にはパレードの馬車を迎えました。昭和51年からは常陸宮の御用邸として使用されています。

ミュージアム1999（旧千葉常五郎邸）

この建物は昭和9年（1934）にタバコで財をなした千葉直五郎が息子常五郎の結婚に際して建てたアールデコ様式の邸宅であったものです。平成30年（2018）に国の登録有形文化財になっています。現在はレストランとして営業しており、地下にあったというプールはワインセラーになっています。



ミュージアム1999

同潤会アパート再現建物

冬至前日の日の出

間島記念館